

実践レポート作成の手引き

※掲載区分「実践レポート」は、教育実践における優れた取り組みを公表するものと位置づけています。第 26 号以前は教育開発推進機構教員との協業を前提としていましたが、第 27 号からは協業を必須としてはいません。実践レポートを投稿の際は、ご自身で投稿規程や「実践レポート作成の手引き」（本書）を確認の上、投稿をお願い致します。

実践レポートは、学内の授業実践や教育実践の取り組みを共有財産としていくことを目的とするものです。この目的から、読み手となる立命館大学教職員がその取り組みを自身の取り組みに活かしていくことができるという点が重要となります。実践レポートの記述では、他の実践者がその取り組みとそこに埋め込まれた知見を活用できるように具体的かつ実践的に記述してください。

1. 授業の工夫報告版

実践レポートの基本骨格として、以下の四点を欠くことなく構成してください。

1. 実践の概要と文脈
2. 実践を行う理由（なぜその実践を行うのか）
3. 実践の具体的内容
4. 結果と省察

それぞれのパートにおいて、上記の「他の実践者がその取り組みとそこに埋め込まれた知見を活用できるように」という点を意識してください。

1. 実践の概要と文脈

ここでは、実践としてどのようなことをしたのかを 1、2 文に凝縮して記述してください。また、どのような文脈でそのような実践をしたのかを記述してください。

文脈として記していただきたいことは、以下の点です。

【授業の場合】：カリキュラム上の位置づけ、目標、内容、方法などと、受講生の情報

【プログラムの場合（授業よりも大きな単位の教育プログラム）】

そのプログラムの学部教学との関係または全学の中で果たす役割、

目標・内容・方法、対象者・参加者の情報

【授業以外の教育実践の場合】

実践の位置づけ、目標、内容、方法などと、参加者の情報

例) 実践レポートの冒頭で記す「実践の概要」

本実践レポートでは、小集団の授業で、学生同士がお互いの授業態度を観察し、評価しあう「授業態度評価シート」を取り入れた実践について報告する。

例) 文脈

実践の場となったのは、〇〇学部科目「プロジェクト入門」(1回生後期配当、受講生30名弱の小集団科目)である。科目の到達目標は、～である。科目のカリキュラム上の位置づけは、学部の教育目標□「～」に向けて1回生後期に必修で全1回生が受講し、2回生からの研究活動の準備をすることをねらいとするものである。

2. 実践を行う理由 (なぜその実践を行うのか)

工夫や取り組みを単に行ったということだけをもって報告するのではなく、なぜその工夫や取り組みを行ったのかを示していただきたいと思います。同じ状況や似たような状況に置かれている読者や異なる課題に取り組もうとしている読者がヒントを手にするように、そうした取り組みの理由や意図を示してください。

実践を行う理由

「授業態度評価シート」を導入しようと思い至ったのは、小集団の授業ではあるが、授業への積極的な参加が見られない学生が散見される状況にあった。それは、授業者が2週間ごとに代わっていくため、授業者との関係が築けず、授業態度に関する規範ルールを確立することが難しいことが要因であると考えられる。

3. 実践の具体的内容

実践として何をどのようにしたのか、実践レポートの読み手が再現できるように具体的にお書きください。

- ・実際の工夫で用いたツール（スライドやワークシート）も実物を可能な限り示してください。
- ・そのツールを用いて授業者はどのような指示・教示をしたのかを実際の発言に近い形で記述してください。
- ・そこでの学生の反応はどうであったのか（例えば、やり方について学生からどういう質問があったのか）といった点について記してください。

*学生のワークシートの記入したものを掲載する場合は、当該学生から許諾を得る必要があります。
また、アンケート結果やテスト得点のような集合データであっても、学生からの許可を得る必要があります。

4. 結果と省察

(1) 結果

実践の結果もまた、読み手が再現した時にどういう結果が得られるのかを把握できるように示していただきたいと思います。結果については、(1) 学生の意識（内的）、(2) 学生の行動や成果物（外的）、(3) 教職員からの見立てを組み合わせ示してください。

なお、3点から総合的に示せる場合は、先行研究の整理が伴うのであれば、実践研究として投稿可能なものとなります。

(2) 省察・考察

実践の結果を受けて、その結果を生みだした要因が何かについての省察・考察を示していただきたいと思います。実践のうまくいった点とその要因、うまくいかなかった点についてはその要因と現時点で考えられる対処法またはさらなる発展方策や他の実践への応用可能な方法について示してください。

コースポートフォリオ（新任教員 FD プログラムで紹介）の以下の構成要素に沿って記述してください。

1. 実践の概要と文脈
2. 実践とリフレクション
3. リフレクションを受けた展望

それぞれのパートにおいて、上記の「他の実践者がその取り組みとそこに埋め込まれた知見を活用できるように」という点を意識してください。

2. コースポートフォリオ版

1. 実践の概要と文脈

ここでは、コースポートフォリオのテンプレートにある「Part 1 コースの情報」について簡潔に記述してください。1つひとつ項目立てする必要はありませんので、かいつまんで記述ください。

- ・コースの概要＝シラバスの「授業の概要と方法」
- ・受講生の到達目標＝シラバスの「受講生の到達目標」
- ・コースの基本情報
- ・成績評価方法
- ・受講生に求める課外学習活動

2. 実践とリフレクション

- ・コース全体のリフレクション（コース全体を通じて工夫していることや力を入れていること）
- ・焦点を絞り込んだリフレクション
 - ―実際に示したことを示してください
 - ―実践の結果を示してください。学生の反応や行動や意識についても示してください。
結果については、(1) 学生の意識（内的）、(2) 学生の行動や成果物（外的）、(3) 教職員からの見立てを組み合わせ示してください。
 - ―その中で、うまくいった点、うまくいかなかった点をできるだけ具体的に示してください。

その際、実際に用いた教示や資料を掲載するなどして、できるだけ具体的に示してください。具体性をもたせることで、読み手にとって有意義な記述になります。読み手にとって有意義になるように具体的に示すことを試みてください。

また、実践を行う理由（なぜその実践を行うのか）についても掘り下げて記述してください。工夫や取り組みを単に行ったということだけをもって報告するのではなく、なぜその工夫や取り組みを行ったのかを示していただきたいと思います。そうすることで、同じ状況や似たような状況に置かれている読者や異なる課題に取り組もうとしている読者がヒントを手にするようにしていただきたいと思います。

3. リフレクションを受けた展望

- ・今後の授業でのさらなる工夫
- ・他の実践での応用可能性
- ・課題の残った点

今後の展望をお書きください。

以上